



イカナゴ瀬戸内海東部系群 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

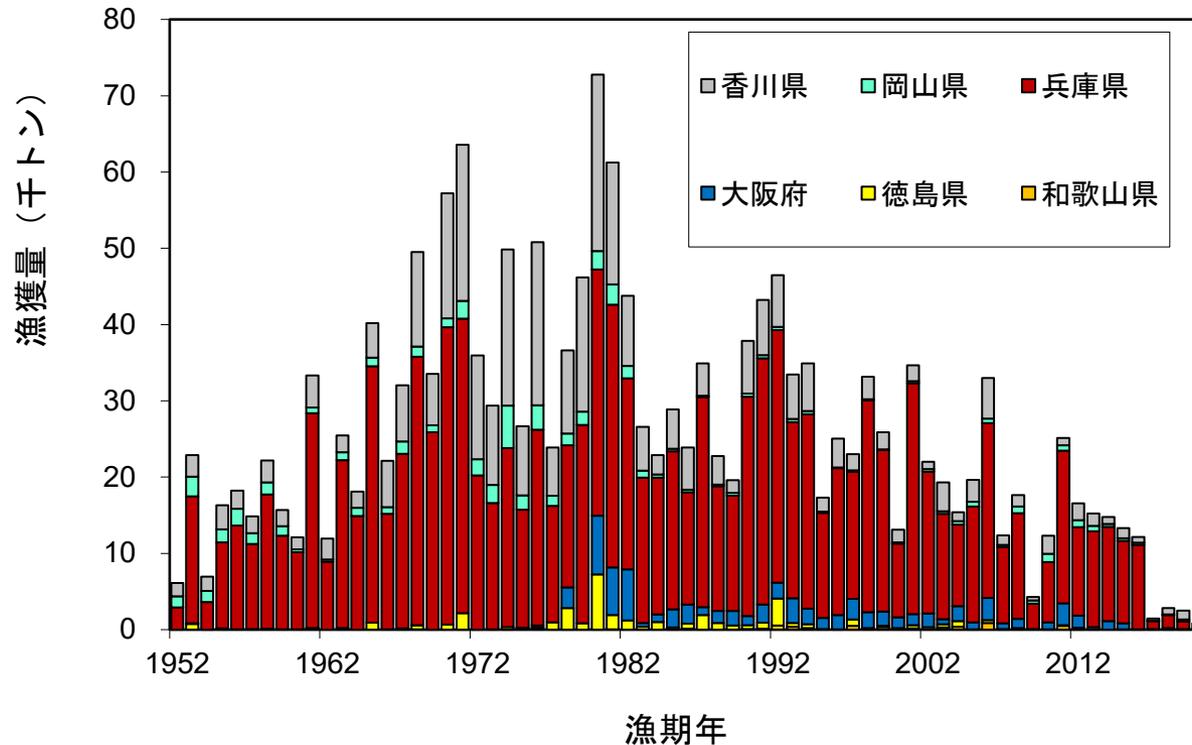


生物学的特性

- 寿命：3～4歳
- 成熟開始年齢：1歳（100%）
- 産卵期・産卵場：
12月～翌年1月、播磨灘北東部と備讃瀬戸
- 食性：
仔稚魚は小型のカイアシ類やその幼生、体長15mm以上の稚魚は毛顎類、枝角類、幼魚や成魚はカイアシ類、珪藻、カニ・エビ幼生、端脚類、尾虫類、イカナゴ仔稚魚
- 捕食者：仔稚魚は多様な浮魚類や毛顎類、幼魚や成魚はスズキ、サワラ、ヒラメ、ブリ等

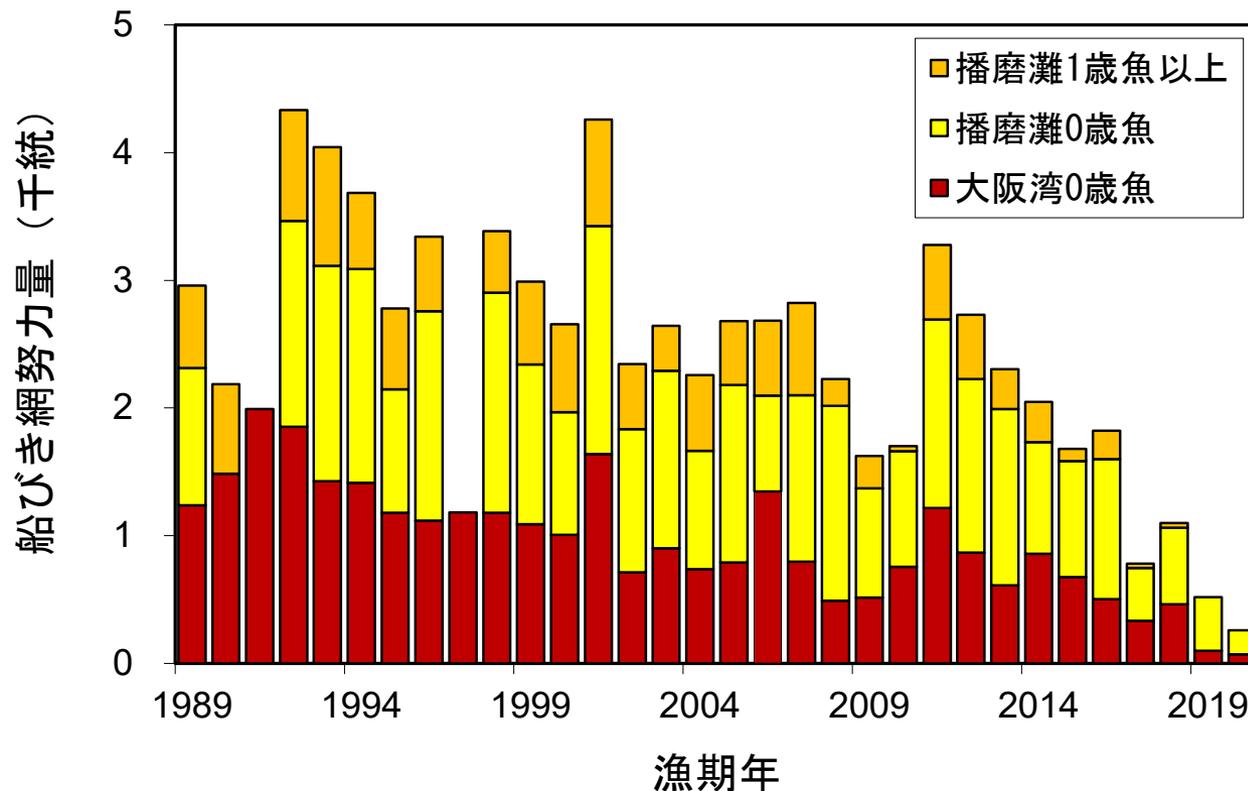
- シンコ（0歳魚）とフルセ（1歳魚以上）を対象

漁獲の動向①



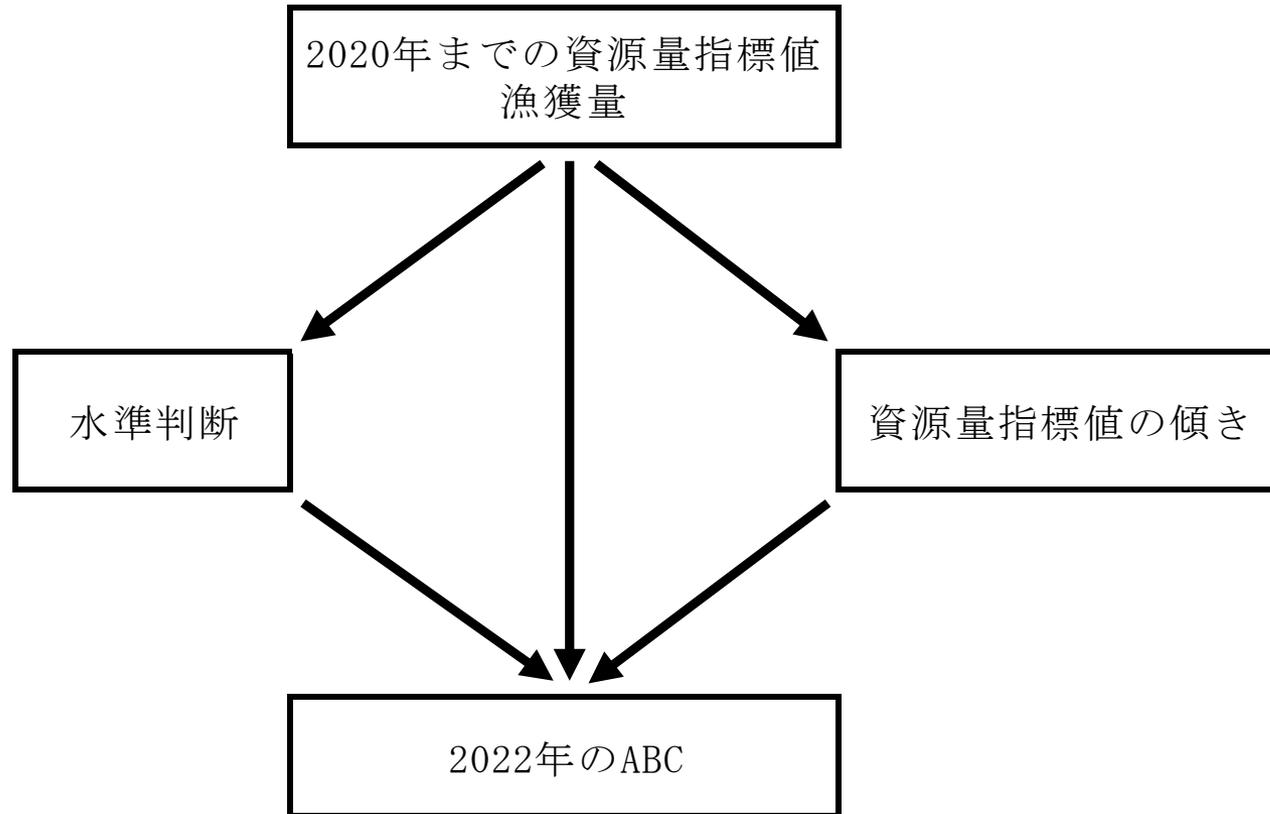
- 主漁法は和歌山県、徳島県、大阪府、兵庫県、岡山県では船びき網、香川県では込瀬網
- 2020年の総漁獲量は832トンで過去最低
- 総漁獲量は、1980年に過去最高の72,765トンに達した以降は減少傾向を示していたが、2017年に1,480トンに急減
- 2018年までは兵庫県の漁獲量が総漁獲量の大半（平均71%）を占めていた

漁獲の動向②

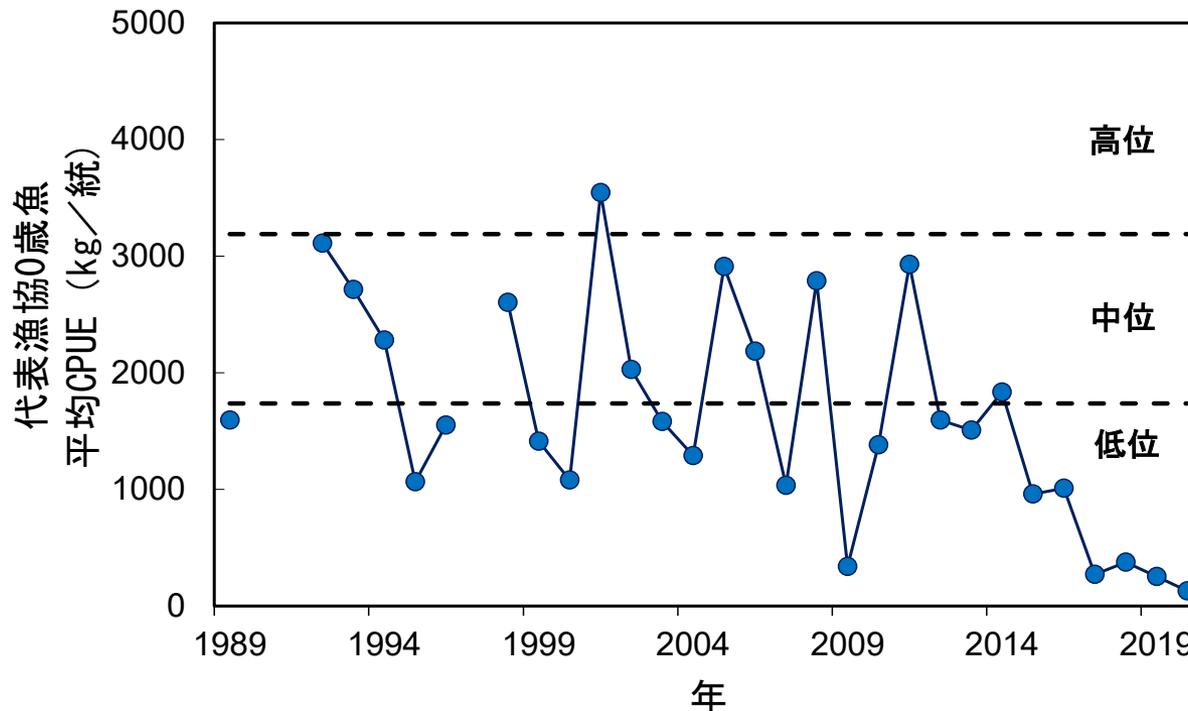


- 大阪湾0歳魚、播磨灘0歳魚に対する努力量はともに近年減少傾向にあり、2020年は両漁協とも過去最低
- 播磨灘1歳魚以上に対する努力量も近年減少傾向にあるとともに、2019年以降は操業を自粛

資源評価の流れ



資源の動向



※水準区分 低位／中位：1,735 kg／統、中位／高位：3,188 kg／統
(コホート解析で推定した親魚量最大値と0歳魚平均CPUEを元に仮定した当該CPUEの最大値(4,718)と当該CPUEの最小値(128)の間を3等分して算出)

- 兵庫県の播磨灘および大阪湾代表漁協の平均CPUEから判断
- 資源水準：2020年の資源量指標値が128 kg／統から「低位」
- 資源動向：直近5年間の資源量指標値の推移から「減少」

※CPUE：単位努力量あたり漁獲量

資源評価のまとめ

- イカナゴ瀬戸内海東部系群の資源水準は低位、動向は減少
- 兵庫県の播磨灘および大阪湾代表漁協の0歳魚平均CPUEから資源状態を判断

2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.7・C2020・0.56	Target	262	—	—
	Limit	328	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta 1 \cdot C_t \cdot \gamma 1$ で計算
- 0.7 ($\delta 1$) : 低位水準の際の係数※
- C2020 (C_t) : 2020年の漁獲量
- 0.56 ($\gamma 1$) : 資源量指標値の変動 (直近5年※) で決まる係数

※市野川ほか (2015) の乱獲回避を重視する管理ルールに基づく